

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ヤギ大活躍プロジェクト
事業主体 (連絡先)	飯綱町 (総務課) 026-253-2511
事業区分	(6)オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業 (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	688,140 円 (うち支援金: 502,000 円)

事業内容

昭和40年代前半頃まで飯綱町の多くの農家で飼われていた「ヤギ」の可能性に着目し、「ヤギ」を十分に活用することで、「飯綱町＝ヤギの町」というイメージを大々的に打ち出し、町の新たな地域資源にしていく。

また、ヤギとのふれあい体験等を通して、地域の歴史・文化等を改めて町民に知ってもらうことで、地域の魅力を再認識してもらい、愛着の持てるまちづくりの推進を目指す。



【ヤギ大活躍プロジェクト】

【目標・ねらい】

- ①新たな地域資源の掘り起こし
- ②飯綱町の知名度向上
- ③愛着の持てるまちづくりの推進
- ④遊休荒廃地の解消

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

ヤギ駅長とのふれあい事業等を通して、飯綱町の新たな地域資源としてのヤギが広く認知され、全国から多くの来町者があり、町民の地域に対する愛着が高まった。また、こうした取組が多くのメディアに取り上げられたことで町の知名度が向上した。

ヤギオーナー制度では、新たなオーナー希望者もあり、少しずつではあるが遊休荒廃地の解消に向け動き出している。

※自己評価【C】

【理由】
ヤギ駅長ふれあい事業では、町内外の多くの方に関心を寄せていただき、約1,000人が参加したが、遊休荒廃地解消を目的とするヤギオーナー制度の進捗が低迷している。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度実施したヤギ駅長とのふれあい事業については、町内外で好評を得たため、引き続き実施するとともに、町内でヤギを飼育する方々を継続的に増加させ、飯綱町の豊かな原風景を取り戻す。また、ヤギをきっかけに多くの方が飯綱町に愛着を持てる取組を引き続き進めていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域ものづくり産業が提供する人材育成		
事業主体 (連絡先)	長野工業振興会 (電話番号: 026-234-5510)		
事業区分	(6) オ その他地域の特色、個性を生かした産業振興、雇用拡大に資する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	715,073 円	うち支援金:	536,000 円

事業内容

- ・本会の部会である次世代経営研究会が産業フェア in 信州に出展し、子どもたちに①アルマイト処理したアルミ板の染色、②板金加工(曲げ加工)を体験するペン立ての作成を行い、普段何気なく使用している物がどのように作られているかを学び、ものづくりの面白さを体験した。(参加者 214 名)
- ・小型で安価な汎用コンピュータ Raspberry Pi を活用してIoT導入に向けたツールの試作開発セミナーを4回開催した。(参加者 6 名)
- ・上記の活動を含め本会の平成 30 年度の取り組みについて成果発表会を行うことで、改めて事業の目的や結果を確認しながら、PR できた。(参加者 31 名)



【産業フェア in 信州の様子】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・子どもたちへのアンケート結果から、当会が想定していなかった部分で(折り曲げ工程の音が良かった等)ものづくりの面白さや発見があった。
- ・会員企業の中には、Raspberry Pi を活用したIoT機器の製品化をした。あるいは、製品のオプションとして試作中など、各参加企業において試作開発を進めることができた。
- ・成果発表会では如何に分かりやすくPRするかという点や会員企業が自らのものづくりに対する姿勢や価値観を再発見することができた。

【目標・ねらい】

- ① 将来の産業人材確保
- ② 地域の中小企業がIoT人材育成
- ③ 長野地域の企業の魅力発信

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

子どもたちをターゲットとしたものづくり体験については、対象の年齢層を変えるなどして継続的に実施していくことにより、地域企業やものづくりの魅力伝えていく。

また、IoT導入に向けたツールの試作開発は、教室形式のセミナーから脱皮し、工場等の現場で使える機器開発を行っていく。

※自己評価【 B 】

【理由】ものづくり体験についてはアンケート結果からも子どもたちから概ね好評を得た。ただし、長野地域の魅力発信については、地域外からの参加者が少なく、発信力が弱かった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある